立命館大学環太平洋文明研究センター第５回研究会

2014 年 6 月 24 日(火)18:15−19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 研究会室 2

環太平洋地域の災害　Ⅰ
−南米チリを中心として−

高橋　学（立命館大学教授：地理学・環境考古学）

環太平洋地域は、地震、火山の噴火などでよく似た災害を経験してきたし、これからもしていくとかんがえられます。高橋教授は環境史・土地開発史・災害史を中心に、これまで災害のメカニズムについて検討されてきました。高橋教授は 2013 年 9 月〜2014 年 3 月末まで、1960 年に観測史上最大のマグニチュード 9.5 の地震を経験したバルデビアを中心にフィールドワークを実施し、15 世紀末以降におけるスペイン人などの移民によって行われた土地開発により、災害がより大きくなったことが明らかになりつつあります。また、バルデビアの地震によって生じた津波により、2 万km離れた日本でも三陸チリ津波がおき 142 名の犠牲者が出ました。それらのことについて、概要を報告していただきます。

地震による周囲の地盤沈下により、根元から木が浮き上がった「抜け上がり」現象（チリ・バルデビア）
高橋学撮影

立命館大学環太平洋文明研究センターは昨年４月に新設された新しい研究組織です。「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」のが目的です。人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。
定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：
環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335
立命館大学環太平洋研究センターHP：http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/